

和鉄の道・Iron Road 2017 掲載記事 トピックス

◎ 愛媛大学東アジア古代鉄文化センター設立 10 年、  
古代鉄研究のナショナルセンターのさらなる展開スタート



「鉄の起源&ユーラシア大陸の Metal Road 探求」の一年の成果レビューをかねて毎年 12 月に愛媛大学で開催される国際シンポジウム。本年第 10 回目を迎え「文明と金属器 - 普及と-その過程」が開催された。世界文明の先進地であり、金属器発祥の地でもある西アジアでの国際連携による取組の第一歩として、金属器・鉄器の源流 鉱物資源の豊富な文明の先進地 西アジアにおける「石器→銅器→青銅器→鉄器への金属器の普及とその過程」のテーマで最前線で活躍中の専門家たちのレビューと相互討論が開催され、その聴講要旨を取りまとめました。

日本の研究者たちの活躍で従来の常識が次々と覆る西アジアの様相

専門家たちのレビューと相互討論から、金属器・鉄器が誕生し、普及してゆく実像が次々と浮かび上がってくる。今まで西アジアとひとくくりでしか知らなかった文明の先進地 ヒッタイトのアナトリア 銅の大生産地東地中海沿岸エヴァント・パレスチナ そしてエジプト・メソポタミア それぞれが、違う様相をしめしながら、交易の広いネットワークで、支えあう。そんな中で、銅器・鉄器が生まれ、利器へと展開し、世界へ伝播してゆく。まったく知らなかった展開にびっくり

注目の愛媛大古代鉄研究所長村上恭通教授の鉄の起源説

「ヒッタイト以前に東地中海沿岸のレヴァント・パレスチナで、銅生産の副産物として人工鉄が誕生」

さらなる具体的な調査研究の進捗が楽しみでしたが、成果はまだこれから。

これからさらにどんな新しい展開があるのか 楽しみな西アジアでの共同連携の始まりです。

● 聴講資料 第 10 回 愛媛大学 東アジア古代鉄文化研究センター国際学術シンポジウム

「文明と金属器 - 普及とその過程 -」 聴講記録 by Mutsu Nakanishi 2017.11.25.

<http://www.infokkna.com/ironroad/2017htm/iron13/1712ironroadsympo.pdf>

◎ 国内の製鉄関連遺跡探訪

淡路島の弥生時代の鉄器工房を有する山間地集落群の拠点集落 舟木遺跡

古代製鉄の奥播磨〜瀬戸内へ流れ下り、河口に広大な塩田地帯を作り、赤穂の街を作った千種川河口



No.	遺跡名	立地 (標高)	時期			特徴
			前期	中期	後期	
1	天海遺跡	15m				大塚式銅器を有
2	狭入遺跡	10m				鉄器
3	海本下村遺跡	17m				
4	伊達遺跡	10m				
5	富島遺跡	5m				銅土器
6	畑田遺跡	5m				銅土器
7	真船沖遺跡	5m				銅土器
8	五斗長垣内遺跡	250m				銅土器・鉄器・彩色磁器・イダコ型
9	舟木遺跡	180m				大塚式銅器・銅土器
10	山ノ尾遺跡	197m				土器・鉄器
11	瀬ノ平遺跡	210m				大塚式銅器・鉄器・イダコ型
12	穴樽遺跡	260m				イダコ型
13	久野々遺跡	270m				銅土器
14	おぼろ遺跡	260m				イダコ型
15	穴瀬遺跡	190m				銅土器
16	穴瀬遺跡	195m				銅土器
17	淡山遺跡	122m				大塚式銅器
18	匠ヶ原遺跡	130m				銅土器
19	塩田遺跡	60m				大塚式銅器
20	塩田遺跡	40m				銅土器

昨年、国生神話の出雲・淡路は強い結びつきを示す松帆銅鐸で沸いた淡路島で、本年 2 月 最古の鉄器生産工房村五斗長垣内遺跡のすぐ近くの山間地で、五斗長垣内遺跡をしのぐ鉄器工房を有する山間地集落群の拠点集

落舟木遺跡が出土。この地周辺は野島海人の根拠地でもあり、淡路島が日本の国造りの始まりに果たした役割に注目が集まっている。また、舟木遺跡を中心とした山間地集落群は生産工場の集落群の性格が強く、従来述べられてきた戦争に備えた高地性集落とは性格が異なっており、弥生の高地性集落の視点を変えるかもしれぬ。自宅からは明石海峡をはさんで、すぐ南 現地見学に行こうと思いつきながら、まだ行けずにいる。



街の背後にそびえる黒鉄山とその頂上から眺めた千種川の河口に広がる赤穂の街



Iron Road を歩く 千種川の河口 赤穂 鉄の名の付く黒鉄山・千種川河口東浜唐船山の渚に砂鉄を見つける 古代製鉄の奥播磨～瀬戸内へ流れ下り、河口に広大な塩田地帯を作り、赤穂の街を作った千種川河口 膨大な砂の量とともに砂鉄が流れ下り、河口には砂鉄浜があったはずですが、埋め立てられ他工業地帯にその痕跡は見られず。でも、再度出かけた 千種川河口東浜の渚で、すこしですが砂鉄の体積を見つけました。

また、赤穂の町の北西に兵庫 100 名山「鉄の名がつく山・黒鉄山」にも登り、瀬戸内の千種川河口の街赤穂を眺めました。

また、美しい響きのあることば「まほろば」を冠して 山陰地方のたたら製鉄が育んだ山陰地方社会・文化を紹介した「鉄のまほろば 山陰たたらに里を訪ねて」の本にも出会いました。

このほか、いろいろな姿を見せる現代の鉄にも出会いあえ、

この1年色々思いを巡らしながらのうれしい

「和鉄の道・Iron Road」探訪記でした。

お暇な時にでも掲載記事をご覧ください。

*和鉄の道・iron road 2017 を整理しつつ Mutsu Nakanishi*

地方の新聞社が出版する本の新聞広告欄「ふるさと発見 新聞社の本」に 山陰中央新報社編

「鉄のまほろば ～山陰たたらに里を訪ねて～」が「今も残る日本遺産のたたら製鉄。山陰を中心に訪ねる」の紹介文とともに掲載されているのを見つけ、「鉄のまほろば」「今も残る日本遺産 山陰たたらに里を訪ねて」の紹介文に魅かれて、神戸の駿々堂書店を覗くと、金属の書籍棚の隅っこに置かれているのを見つけました。

「国のまほろば 大和」「北のまほろば 津軽」など「まほろば」の言葉には、なんとも心地よい響きがある。深く考えたことはないが、素晴らしいとか うるわしい 豊たかなどのセンター的な地域や場所をさすのだと思っていました。

「大和は 国のまほろば  
ただなづ 青垣山ごもれる 大和し 美しい  
古事記 倭建命  
可馬遺太郎 街道をゆく 41 巻  
「北のまほろば (津軽)」

